令和２年度

橘北地区まちづくり通信

特集号

令和３年４月１日通算第９号

発　　行：広報･しもなか通信分科会
編集責任者：小澤　誠　分科会副科長
発行責任者：下浅　三雄　分科会科長

新型コロナウイルス感染症の拡大により、まちづくり委員会・自治会活動その他多くの活動や事業の中止、縮小を余儀なくされています。今後、「三密」の回避など「ニューノーマル」に対応したまちづくりが必要とされています。
外出や対面を控える生活を送ることが増えて、自宅や近所で過ごす時間が増えることで、地域コミュニティへの関心を持つ人や地域でのつながりを求める人が増えるでしょうし、地域コミュニティ活動の重要性は増して行くのではないでしょうか。
さて、そんな中、橘町が小田原市と合併５０年の節目を迎えるにあたり、合併についてのお話を加藤仁司市議に、地域の歴史の一部である、中村湖についてのお話を歴史に大変お詳しい小船第２区の早野耕平さんにお願いをし、快くお引き受けいただきました。
皆様がより一層、地域に関心を持っていただければと存じます。　　委員長：田中　正俊

小田原市橘町合併 50 周年を迎えて

小田原市議会議員　加藤仁司

足柄下郡橘町が小田原市に合併したのは、私が小学校４年生の時でした。

前年に現在もある下中小学校屋内運動場が完成しました。それまで学習発表会は２年生の２学級の教室の仕切りを解除して行っていましたが、屋内運動場が出来たことで全生徒が発表を見ることができたことを記憶しています。

前羽小学校の屋内運動場もその前年に完成したとも聞いており、合併と関係しているかもしれません。

更に、４年生になった途端に給食の食パンが一枚増量の 3 枚となって、いつもパンが食べきれないで残飯となっていたことを鮮明に記憶しています。これも合併したためかわかりませんが、子供心に市になると裕福になるのかと思ったほどです。また、毎年の年賀状に書く住所も、２文字減り、更に画数の多い「橘」を書かなくてもよくなった喜びを感じました。幼い頃の思い出に文章の殆どを割いてしまいましたが、県のホームページアーカイブに興味深い記事を見つけました。本来、昨年開催予定であった東京オリンピックですが、56 年前の東京オリンピックにあたり聖火ランナーの引継ぎについて、当時の橘町の関係者が聖火引継ぎ場所にクレームをつけた経緯が紹介されています。そして、当初は押切坂上での引継ぎ場所が提示されていたのですが、それを押切坂下（このような地名が存在するかはわかりません）として中村川橋上を引継ぎ場所にさせたようです。当時の橘町民の熱意を感じずにはいられません。小田原市に合併して 50 年の節目を迎えるにあたり、当時を知る多くの人がこれからも橘地域の様々な歴史やエピソードを次代の人々へ伝えて欲しいと願います。

※握手は中井小田原市長と安西橘町長
会場は橘中学校体育館

★(写真は広報おだわら：小田原市橘町合併特集
1971 年４月１日から)

★中村湖って知ってる？

小船第2区　早野　耕平

中村湖とは仮称ではあるが、橘北地区に存在した、古の湖の名前である。縄文時代約９，０００年～７，５００年前の中村川下流に気候温暖化のため＋２度の気温上昇により、海水の陸地への侵入があった。いわゆる縄文海進である。そのため古中村湾と呼ばれる内湾が形成され、約６，５００年前にかけて内湾は拡大し、小田原市小竹小田原厚木道路付近まで海が内陸に入り込んだという。（下図左、古中村湾）

大磯丘陵地帯は国府津－松田断層を境に北アメリカ大陸プレートの最西端に位置している。酒匂川から箱根方面は南フィリピン海プレートに属し、地質が重いために沈み込む性質がある。そのため、地質の軽い大磯丘陵地帯は地震のたびに大きく跳ね上がり、大地震に合うと１ｍ以上の隆起が見られる全国有数の隆起地帯である。

約６，５００年前に大磯丘陵西縁の神縄・国府津－松田断層帯の活動によって引き起こされた巨大地震により、海岸が隆起と度重なる地震による地盤隆起、縄文海退により古中村湾の湾口が塞がれ、古中村潟が形成され（下図右上、縄文海退中の状況）、さらに進んで、古中村湖が形成されたと思われる。（下図中央、古中村湖）　工業団地内の羽根尾貝塚はこの時代の湖岸に在ったものであろう。

中村湖の初めの流出口は現在の小田原市と二宮町との境目、橘インター国道１号線の部分。２番目は最南部を国府津側に進む厩川（うまやがわ）から前羽小学校の北側から国道１号線の漬物屋さんの隣に出る関下川（せきしたがわ）である。では現在の地形の中村川だけの姿になったのは何時頃であろうか。鎌倉幕府執権北条貞時の、正応６年（１２９３年）４月１２日以降に発生したＭ７以上の大地震と想定される。震源域は鎌倉周辺で永仁の関東地震、鎌倉強震地震、永仁鎌倉地震、建長寺地震などと呼ばれ大きな被害を発生。この時の地震により、ＪＲ東海道線羽根尾地下道の西側に当たる厩川の始まり部の山側が崩れて厩川をせき止め、現在の押切部の土手部分が崩壊して中村湖の水が流失し、今の中村川、塔台川になったと推定する。

当時に由来する地名　池上（いけがみ）、池尻、入小船、 船津（姓）

参照　いにしえの小田原　　渡辺千尋

前羽小学校編　郷土の研究　地理の部

中村湖推定図：梅田　仙吉

縄文海進時代

縄文海退中の状況

現在の地図に古中村湖の推定の図を描いた

青色回転灯パトロール車ふれあい広場使用のお知らせ

防犯・青パト導入検討分科会では昨年１月の小田原市駅伝競走大会でお披露目となった橘ブルーアイズのパトロール専用車の導入に伴い。

車両の駐車場所を何処にしたらいいのか、パトロールをする時に集合する場所を何処にするか検討しました。

色々と検討した結果「環境事業センター」の許可を頂き、広場や周辺の防犯効果にもなる事から「中村原ふれあい広場」に置かせて頂く事になりました。

ご理解、ご協力をお願い致します。

※パトロール隊員さん募集中です！

地域の防犯啓発の仲間になりませんか？　興味のある方はお気軽にご連絡ください。

連絡先　加藤　仁司（080-5543-2736）ブルーアイズ隊長